

科目ナンバリング							
授業科目名 ＜英訳＞	ILASセミナー（海外）：南仏伝統産地のワインビジネス戦略 ILAS Seminar (Overseas) :Wine Business Strategy in Languedoc-Roussillon			担当者所属 職名・氏名	農学研究科 教授 小田 滋晃 農学研究科 准教授 伊庭 治彦		
群	少人数群	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2024・ 前期集中	受講定員 (1回生定員)	25 (15) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	集中 8月の上中旬で2 日から3日程度 （後日広報する 、集中講義形式 で実施	教室	国外で実施（フランス）			使用言語	日本語
キーワード	南仏 / ワインビジネス / ワイン醸造組合 / ワインツーリズム / AMAP						
【授業の概要・目的】							
当科目では、フランスの主要なワイン産地である南仏ラングドック・ルシヨン地域を対象として、伝統産地の変遷やワイン産業の戦略について学ぶ。その際、家族経営やワイン醸造組合、台頭が目覚ましい独立系ワイナリー等の多様なブドウ栽培・ワイン醸造経営体に焦点を当てる。その上で、それら多様な経営体を取り巻く様々な主体（Montpellier SupAgro：モンペリエ農業科学高等教育国際センター、INRA Montpellier：モンペリエ国立農学研究所、農業協同組合連合会等）との連携や当該地域の歴史的経緯を踏まえて、地域活性化を担うそれら多様な経営体のワインビジネス戦略について臨地研修を行う。 特に、近年ワインビジネス戦略および地域活性化策の一環と捉えられるワインツーリズムやAMAP（農消連携）にも着目し、当該地域におけるワインと切り離せない歴史的・文化的景観や食文化、関連産業等についてもその理解を促す。							
【到達目標】							
・フランスにおけるワイン伝統産地の歴史的展開過程を理解する。 ・六次産業化の原点と言えるワインビジネスの経済・経営的特質とその戦略の多様性を理解する。 ・ワインビジネスを巡るオクシタニ州：ラングドック・ルシヨン地域における諸関連主体のあり様と役割を理解する。							
【授業計画と内容】							
本科目は座学および現地での研修によって構成される。 座学においては、 （１）グローバルビジネスとしてのワインビジネスの展開 （２）世界の中のオクシタニ州：ラングドック・ルシヨン地域 （３）ラングドック・ルシヨン地域におけるワイン醸造組合の変遷と現状 （４）ラングドック・ルシヨン地域における独立ワイナリーの台頭 （５）ラングドック・ルシヨン地域におけるワイン産業クラスター （６）Montpellier SupAgro（モンペリエ農業科学高等教育国際センター）、INRA Montpellier（モンペリエ国立農学研究所）やAgropolis Internationalの役割などについて概説し、臨地研修に必要な知識の修養をおこなう。8月に集中講義方式で実施する（日時は後日広報）。 臨地研修においては、およそ10日間のプログラムで実施する。							
ILASセミナー（海外）：南仏伝統産地のワインビジネス戦略(2)へ続く...							

ILASセミナー（海外）：南仏伝統産地のワインビジネス戦略(2)

1. 京都 - 伊丹 - 羽田 - (パリ経由) - モンペリエ (空路移動)
 2. 研修オリエンテーション、現地研究者・学生による講義、交流会 (Montpellier SupAgro)
 3. ワイン醸造組合視察と現地調査、Coop de France (フランス農業協同組合連合会) の視察と現地調査
 4. ラングドック地域の独立系ワイナリー視察の視察と現地調査
 5. INRA実証ワイナリー、ラングドック・ルシヨン地域の独立系ワイナリーの視察と現地調査
 6. ワインツーリズム実践ワイナリーの視察と現地調査
 7. 南仏ワイン産地の歴史的・文化的景観視察、関連産業、AMAP等の視察
 8. 報告会準備、予備日
 9. INRAでの研修報告会 (INRAモンペリエにて)
 10. モンペリエ - (パリ経由) - 関空 - 京都 (翌日着)
- 予定では、2017年8月あるいは9月に10日間程度の日程で実施

【履修要件】

1. 海外臨地研修への参加は、ILASセミナー（海外）：「南仏伝統産地のワインビジネス戦略（講義）」の事前座学を必須とする。
2. 海外渡航に伴うリスクを十分認識し、自らの意思と責任において参加すること。保護者の了承を得ること。
3. 原則として1回生を対象とするが、他回生の受講も認める。

安全講習の受講、学研災付帯海外留学保険への加入が確認できない学生は、ILASセミナー（海外）に参加することはできません。

【成績評価の方法・観点】

事前座学、臨地研修への参加、現地グループ報告会（臨地研修体験を英語もしくはフランス語で発表）と研修レポートにより判定する。なお、配点割合は講義において説明する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

Thach, L and T. Matz編著 横塚弘毅・小田滋晃・落合孝次・伊庭治彦・香川文庸監訳、『ワインビジネス—ブドウ畑から食卓までつなぐグローバル戦略』、昭和堂、2010、ISBN-10: 4812209498、ISBN-13: 978-4812209493

【授業外学修（予習・復習）等】

臨地研修に臨んで次のような課題を各自で事前に調べておくことが望ましい。

- ・世界のワイン産業の動向
- ・オクシタニ州：ラングドック・ルシヨン地域の地理的位置やワイン産業の地位
- ・ワイン製造方法の概略
- ・ワイン用ブドウの特徴と種類

【その他（オフィスアワー等）】

1. 履修者数は臨地研修参加希望者の人数により制限する場合がある。
2. 履修者の決定方法：4月上旬の当授業の説明会で知らせる。
3. 海外臨地研修にかかる渡航費、滞在費、研修実費および海外留学保険加入等に要する費用を工面できること。研修費用の参加者負担額は最大で概ね40万円程度（予定）を見込む。ただし、為替レ

ートの変動で変わる場合もあることに留意のこと。

4.2017年7月頃(or 2018年3月頃)に10日間程度、Montpellier SupAgro（モンペリエ農業科学高等教育国際センター）から学生グループが交流事業の一環として来日し、交流事業を実施する。当科目の履修者がこの交流事業の一部に参加されることを期待する。